

2025年3月25日発行 エコ・リサ通信

第 127 号
特定非営利活動法人
埼玉エコ・リサイクル連絡会広報

報告 エコ・リサ交流集会

2025年2月20日（木）14時～16時30分、ソニック702号室にて、交流集会を開催いたしました。会場参加者21名、ZOOM参加者8名でした。

埼玉県資源循環推進課安藤課長から祝辞をいただき、3団体が活動発表、その後ごみ減量について活発な意見交換をしました。



↓主催者挨拶・資源循環推進課来賓祝辞全文はエコ・リサイクル連絡会HPにてご紹介いたしております。

http://www.townnavi.info/eco-risa/con02/koryusyukai2025/koryusyukai2025_1.pdf

「雑がみポン」活動報告

NPO 法人さやま環境市民ネットワーク

大貫裕子様・安藤倫子様・長谷川秀夫様・吉岡勇三様

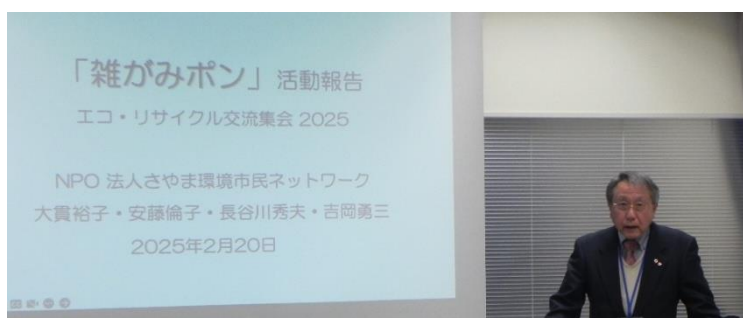
代表理事の吉岡様よりNPO 法人さやま環境ネットワークのご紹介をいただきました。

2003年 任意団体さやま環境市民ネットワーク設立

2007年 NPO 法人さやま環境市民ネットワーク設立

急激な都市化が進んだ20世紀後半行政と市民が狭山市の緑や川の環境を守ろうと立ち上がり、2009年彩の国埼玉環境大賞受賞、2021年脱炭素チャレンジカップ環境大臣金賞受賞、会員数約180名（個人、団体、企業）。

緑、川、ごみ減量、温暖化対策の4つの分科会で構成され各分科会が公民館や学校向けに普及・啓発活動をしています。



「雑がみぼん」の活動

狭山市のゴミの状況ですが家庭ごみの73%がもやすごみで、もやすごみの半分が紙・布類であり、資源ごみとなる「雑がみ」を活かすことができればごみの減量につながる事に着目しました。

「雑がみ」を生かせば資源、燃やせば CO₂を合言葉として「雑がみポン」と名付け幼児向けに活動をしています。

大人が子供に躰けるより、幼児から大人に向けた伝え方が有効と考え、雑がみ袋を作り家庭に持ち帰らせました。

この後実際に幼稚園などで「雑がみポン」活動を行っているビデオをご紹介いただきました。ゴーマー博士の大貫さん・安藤さんが環境の好きな「環ちゃん」を抱いて腹話術で園児に優しく説明しているのが印象的でした。



会場でも参加者が実際に雑がみ袋作りを体験しました。普段の活動同様にご説明いただきました。狭山市では雑がみ袋に雑がみを入れてそのまま回収しているそうです。

また、袋を連結させてハガキなどの個人情報を書かれているものは破いて左右の袋に交互に入れる事により守られるとの事です。

最後に「ざつがみポンのうた」をご披露いただきました。

(報告者 石川)

参照 NPO 法人さやま環境市民ネットワーク HP

<https://blog.sayama-kankyo.org/2025/02/20250220.html>



「オーガニック給食とSDGs」

NPO法人生活工房つばさ・遊 高橋優子様

1971年 残留農薬に問題意識を持った志ある農家さんたちにより「日本有機農業研究所」が結成され「有機農業」という言葉が誕生しました。

農薬は「薬」と記すがその実は「毒」である

近年私たちの身の回りでも、スズメやツバメが減少しており、これらは残留農薬の影響によるものと考えられます。



一般社団法人 繊維リサイクル協会

<http://tera-jpn.or.jp/index.html>



有機農業には「食の安全」以外にも多面的な機能がある

「土壌の健康維持」

「水質保全」

「生物多様性の保護」

「温室効果ガスの削減」

更に、田んぼは、「水害に備える防災の役目も果たしてくれる」

有機農業を広げていく上で、生産はもとより販路も大事。

出典：食品と暮らしの安全 2020..11 NO.379

発達障害児の推移

(小・中学校で通級による指導を受けている生徒数)



安全な食べ物をまず子供達に食べさせたい、という思いから、その販路として学校給食に注目。講師がここで示したデータは、発達障害児の数と農薬使用量の推移が同調していることを表しており、その因果関係を示す明確なエビデンスは無いとはいえ、予防原則「疑わしきは用いず」が良いのではないか、とのこと。

オーガニック給食の事例として4例を紹介

- ①長崎のマミー保育園ではオーガニック和食(ご飯と具だくさんみそ汁)にすることで病欠が減り、体温が上昇した。(SDG2)
- ②静岡県袋井市では教育委員会美味しい給食課が積極的に関わる事で地産地消率が急激に上がり、適切な温度管理によって生食で提供できる。(SDG3)
- ③40年前からオーガニック給食に取り組む東京都武蔵野市は、調味料やサラダ油にまでこだわっている。(SDG12)

④千葉県いすみ市ではコウノトリが舞う環境に優しい地域づくりの観点から、餌のために無農薬の田んぼを増やし、コウノトリが帰ってきた。(SDG13)

海外の事例として韓国の無償オーガニック学校給食の様子(契約計画生産で親環境無償給食を実施)もレポートいただきました。韓国では有機農家への支援も手厚い、とのことでした。

オーガニック給食を始める為には、安供給、予算、現場での対応など課題はありますが、それぞれの課題に対する解決案もお示しく下さいました。

これからは「自産自消」の時代

小利大安の下里モデル、地域から得られる利益はみんなで分かち合い、利益は少ないけど大きな安らぎを得て生きていこう。

物を買うときは、裏側を見て、オーガニックを選びましょう。

できれば地元の農産物を選びましょう。と締めくくられました。

(報告者 佐藤正和)

楽しくごみを減らそう 着物リメイクに挑戦

グリーンコンシューマー委員会

大前 万寿美

着物が捨てられている

実家じまいの際に、母、祖母の着物の始末に困り、燃やすごみに出されている現状があります。日本の文化は大切にしたいけれど、現代生活の中で、たもとが邪魔で着物を着て過ごすことはなかなか困難です。我が家でも、私が死ねば、着物の価値がわからず、息子たち家族に廃棄されてしまうのでは?と心配です。そこで、着物のリメイクに挑戦してみました。

天然繊維は、マイクロプラスチック削減にもつながる

フリースなどの化学繊維衣料は、洗濯の際にマイクロプラスチックを排水と一緒に環境中に放出しています。水や生き物から摂取するだけでなく、呼吸によっても浮遊するマイクロプラスチックを体内に取り込んでいる問題が発生しています。

お蚕の繭からとれる天然繊維、絹の着物を日常の衣類に活用することで、環境と健康を守ることができます。

絹の特徴

・吸湿性、放湿性に優れている

- ・軽くて柔らかい
- ・紫外線を吸収する

主成分は18種類のアミノ酸で構成されている、お肌との親和性が高い「動物性タンパク質繊維」です。高級なシルク入り化粧品を使用しなくても、ストール、パジャマ、下着、布団カバーなどにリメイクすることで、快適な生活ができます。



まっすぐに縫うだけなので、お裁縫が苦手でも大丈夫

着物はほぼ直線のみで縫われています。ミシンで縫うと縫い目が裂けてしまうような織物もあります。手縫いで、ザクザク縫っても出来上がりに影響が少ないので安心して挑戦してみましょう。

参加者がモデルさんになり、着心地も体験！

初心者には羽織に挑戦

ハサミを入れるのに抵抗がある方は、袂の下部分を縫い縮め、ボタンととめ紐を取り付けるだけでジャケットとして着用可能です。糸を抜けば、元の羽織として使用可能です。

袂の下部分を、カットしてとじ付けると動きやすいジャケットになります。

絞りの特徴

軽くて暖かい。解くと伸び縮みします。襟の部分だけをほどいて、裏地に別布を足すと半コートやカーディガンの代わりに重宝します。

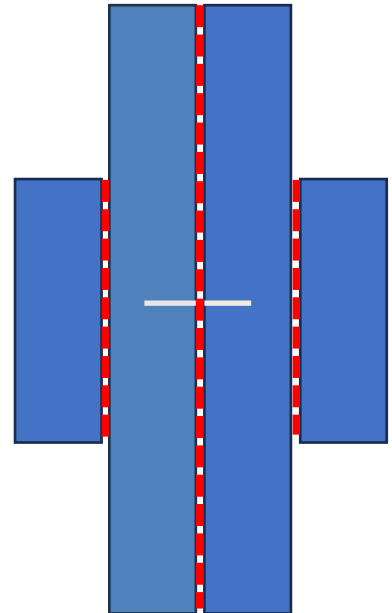
縮緬の特徴

丈夫で肌触りがとても良いので、着物としてきれなくなった色が派手な着物やシミがついてしまった着物は、パジャマにリメイクすると良いです。

大島紬の特徴

ミシンでのリメイク、洗濯が可能です。赤がたくさん入った派手な柄などで、首と袖口だけ残して直線縫いでできるポンチョなどから、始めてみましょう。

複雑なデザインのものにも適しているので、幅広いリメイクに適しており人気です。



赤線部分をつなぎ合わせ、首周りと裾の始末をすれば、ポンチョ完成。

シルクは夏でも冬でも着心地が良い

昔の人々は、冬になると秋に使用していた着物の中に綿を詰めて冬着として使用し、春になると綿を抜くという工夫をしていたそうです。これに倣って、私も袖なしの夏用のブラウスを、秋には長方形の共布を縫い付け長袖にして着ています。真夏になれば、糸1本をずっと抜けば、涼しく着ることができます。衣類のかさも増えず、断捨離を心掛けている方にピッタリです。

着物リメイク品を海外で生産、浅草で販売

一般廃棄物の中の資源ごみとして出されている古着の回収事業を行っています。エリアは、主に埼玉県内と西東京の古着を回収し、年間 800 t くらいの量を取り扱っています。

本日は着物のリメイク品をご紹介します。キムラセンイ(株)では、2001 年からマレーシアのペナン州で選別や加工を行っています。本日紹介するために持ってきたリメイク品の特徴の一つは、海外の若者たちが作っているということ、そしてもう一つは、それを逆輸入して浅草の新仲見世の自社の店舗で販売しているということです。

キムラセンイ(株) 佐藤正和氏



バッグについては、少々外国人向けのデザインになっており、中はポケット付きで、キムラセンイ(株)のお店の“き”のロゴを付けてあります。よろしければお店をのぞいてみてください。浅草きらく屋です。クッション、和風のバレッタなどの髪飾りやボタンなどの小物も販売しております。どうぞよろしくお願いいたします。

ごみ減量のために

ごみを知ろう委員会 中澤啓子

本日展示しているスラッシュキルトは、子どもの浴衣をほどいたものやシーツなど 10 枚程度を重ねて縫い合わせたマットです。斜め直線でキルティング加工をしたのち、縫い目の線と線の間に切り込みを入れて作ります。タオル地で作ったマットに風合いは似ており、丈夫なので洗濯機でジャブジャブ洗え、10 年程度使用に耐えます。

また、男物の T シャツと巻きスカートをつないでワンピースにしたり、冬物の子どものパジャマの袖に頭と前足部分の穴をあけてワンちゃんグッズに作り替えたりしています。

エコ・リサでは、ごみの組成に水分量に戻して推計値を算出

市町村でだされるごみのデータは、水分量を除いた乾燥した後のごみの組成分析です。エコ・リサごみを知ろう委員会では、水分を組成ごとに戻した現実に近いごみの量のデータを算出しています。結果として減ってきているのは、生ゴミです。総菜やカット野菜を購入する生活が影響していると考えられます。他のごみは増えており、特に増えているのはプラスチックごみです。

(報告者 大前万寿美)

司法書士竹内啓修事務所

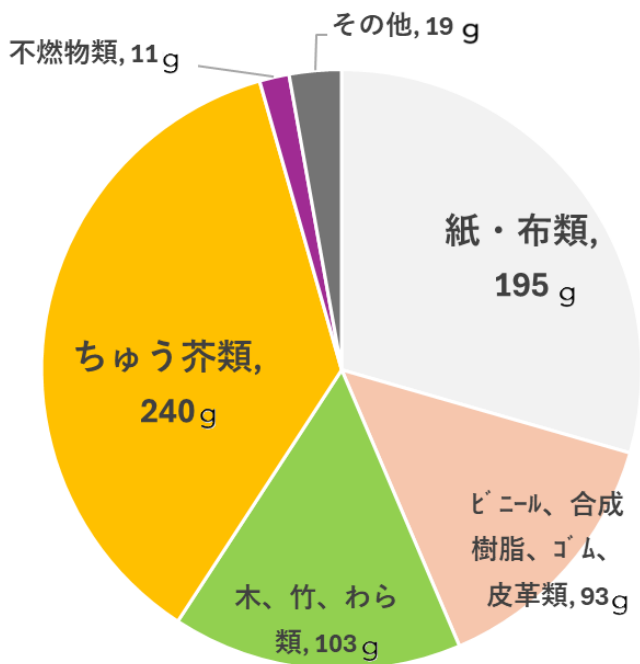
お問合せ ☎ 048-963-6055 不動産・商業登記全般

令和 4 年度の焼却ごみの内容

環境省 HP；一般廃棄物処理実態調査結果（報告 2024 年令和 6 年 4 月 19 日公表）より

埼玉エコ・リサイクル連絡会
ごみを知ろう委員会 中澤啓子

令和 4 年度の焼却ごみの内容



令和 4 年度の埼玉県の焼却ごみを

“エコ・リサイクル連絡会ごみを知ろう委員会方式”で解析しました。

その結果 1 人一日あたり 661 グラムでした。（左グラフ）ちゅう芥類と分類されているいわゆる生ごみが約 36% と一番多く、次いで紙や布類が 29% でした。

ビニールや合成樹脂類（プラ容器ごみ類）は、14% でしたが、こちらは細かくしてごみに出すのはなかなか困難なものが多いと思いますので、ごみ袋の中ではかなりの容積を占めているのではないのでしょうか。

皆さんのお宅ではいかがですか？
因みに我が家のある日のプラ容器ごみ類は 10 個で約 70 グラムでした（2 人）。食料品の入っていたプラ容器ご

みはなかなか減らせず困っています。昔はお鍋を持ってお豆腐を買いに行きました。油も瓶を持って買い物に行きました。野菜もそのまま受け取っていたと思います。水漏れしないプラ容器が出現し、大変便利になりました。お勤めの帰りにちょっと買い物をしても何も不便はありません。代わりにその度にごみになるものが出るようになりました。

1 人一日あたりの焼却ごみの量について

エコリサで計算しているごみの量は環境省のデータを基にしています。

令和 4 年度のごみの量は令和 4 年 4 月～5 年 3 月末日までの量が令和 5 年度になって纏められ経費と共に各焼却場からデータが送られ市町村で審議されます。最終的に審議が終わるのが 12 月頃の所が多いようです。その結果が環境省に送られて公表されますので、令和 6 年になって公表されます。それまでは途中のデータとしてしか取り扱う事ができません。

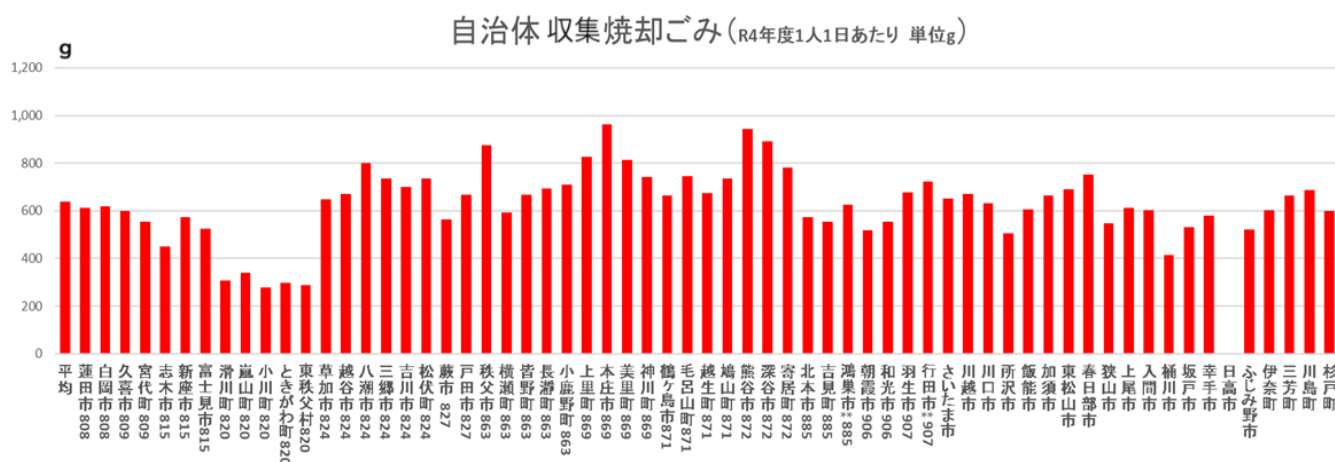
661gの焼却処理量ですが、ごみを知ろう委員会では、埼玉県内の各焼却場で報告された一年度分のごみの量を合計して人口で割り**661g**という一日あたりの数字を計算しました。この各焼却場の処理量には

- ① 各家庭から出され収集された生活系の焼却ごみ
- ② 事業系のごみ
- ③ リサイクル残渣
- ④ し尿や汚泥の一部
- ⑤ 産廃

などが合算されています。（④⑤のごみは全ての焼却場が引き受けているわけではありません）

埼玉エコリサイクルで推計しているごみの内容についてですが、環境省のデータでは各内容が乾燥重量の割合で示されています。割合のデータをそのまま平均したのでは各焼却場の規模がそれぞれ違いますので、本当の平均は出せません。

そこで、ごみを知ろう委員会では、焼却場ごとのゴミの乾燥データに水分をふくませて割り戻し、計算しなおして報告しています。これが今回の**661g**です。各自治体ごとで収集している生活系焼却ごみの量**640g**より焼却処理量の結果の方が少し多い数字になっています。



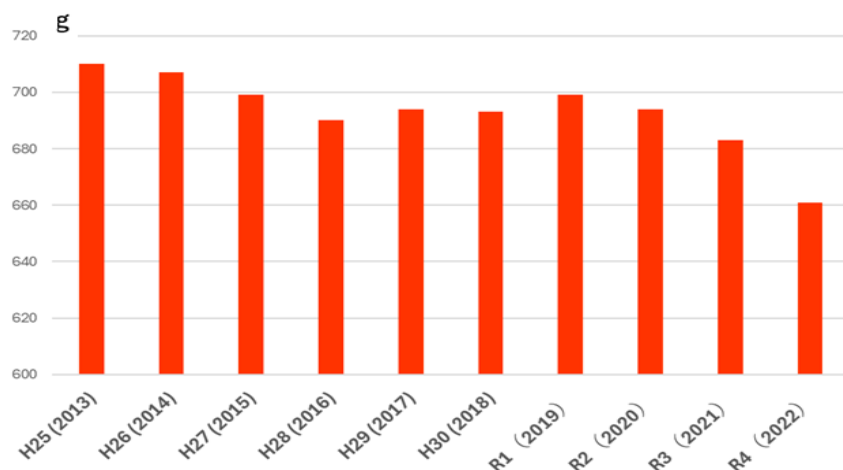
各自治体で収集し焼却しているごみ(直接焼却量)の一人一日あたりの量は上のグラフのとおりです。少ない所はときがわ町の294gで多い所は本庄市の962gでした。皆さんの自治体ではいかがでしょうか？

自治体名の下に数字は一部事務組合の番号です。*のついてる自治体は二つの事務組合に所属しています。(鴻巣市は彩北広域清掃組合と中部環境保全組合、行田市は彩北広域清掃組合と行田羽生資源環境組合)。また、お互いの協定の元、共同で処理しているところもあります(ふじみ野市と三芳町、幸手市と杉戸町)。因みに日高市は可燃ごみとなるものはセメント会社で処理していますので焼却ごみはありません。

1 人一日あたりのごみの量

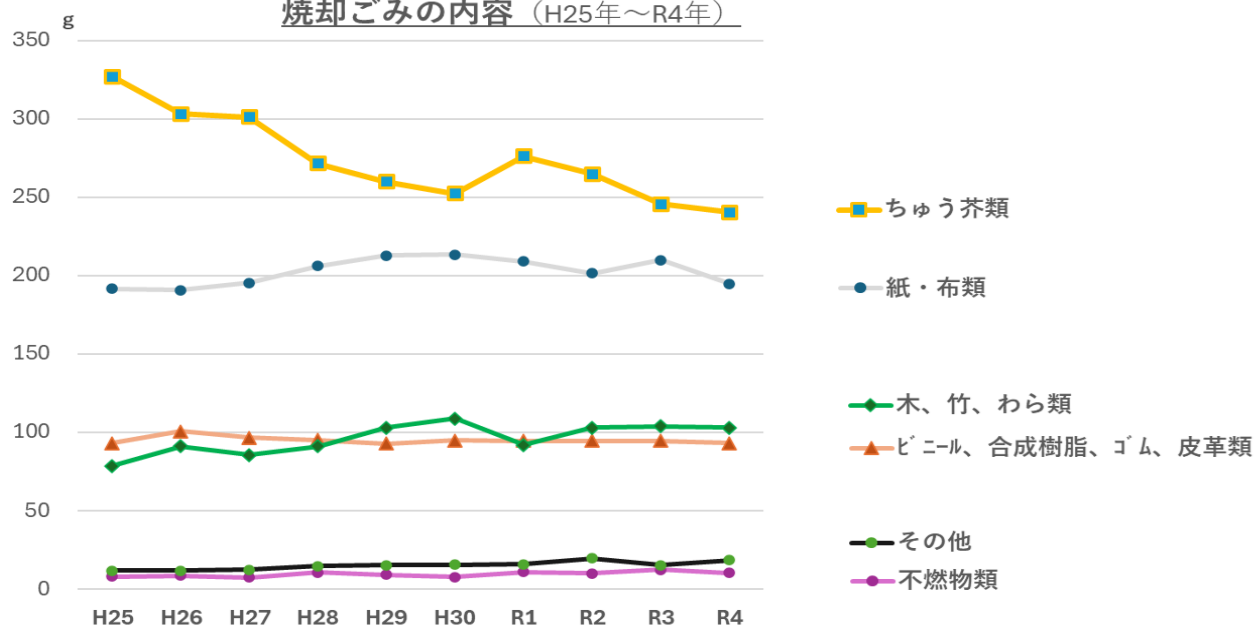
は 一時期（平成 29 年度頃から令和 1 年度）なかなか減りませんでしたが、その後また次第に減ってきています。（右グラフ：平成 25 年度から今回報告の令和 4 年度）

一人一日あたりの焼却処理量（H25～R4）単位 g



そこで、焼却ごみの内

焼却ごみの内容（H25年～R4年）



容を同様に平成 25 年度から令和 4 年度まで比べてみました。主として減っていたのはちゅう芥ごみでした。（上グラフ） ビニール類（プラごみ類）は減っている様子はありませんでした。多くのお店でペットボトルや発泡スチロール製のトレイの回収がされています。また、お店でのレジ袋が有料化となり（令和 2 年 7 月）、買い物袋を持っている方を多く見かけるようになりました。意識の高まりは感じますが残念ですね。

税理士法人 T&M ソリューション

毎月第 2 水曜日は「税の無料相談日」 お気軽にお問い合わせください！

お問合せ ☎ 03-5829-9664 E-mail info@tms.or.jp

不用品とはいえ燃やしてしまっ

たら元には戻りません。できるだけ有効利用して焼却処分を少なくしたいものです。右はフランスの容器の写真ですが 中央の容器には「賞味期限を過ぎたら、見て、匂い嗅いで、ちょっと舐めてみて、食べられるかどうか確認して、大丈夫そうなら捨てずに食べよう」とかいてあるそうです。 左の容器の下の人間マークがついているものはリサイクル用のゴミ箱「poubelle jaune（黄色いゴミ箱という意味）」に入れること」になっているのだそうです。 他の国にはソノクニなりの事情があり全く同様にした方が良いと言う事ではありませんが日本も少し考えてもよいかもしれません。 埼玉県でもフードロス対策として “食べきり SaiTaMa 大作戦” “食べきりスタイル（Style）” “食べきりタイム（Time）” “食べきりメニュー” 等の啓発活動もされています。 けれど、賞味期限や消費期限という数字が邪魔をしているような気がします。

紙や布類の回収もかなり復活してきたとおもいます。リサイクルマーケットも時々見られるようになってきました。手軽に不用品が譲れるインターネットのサイトもできています。

不用品の再利用システムも変わってきましたが紙や布等にはまだまだ皆様のごみ減量に向けたアイデアは有ると思います。 いかがでしょうか？



読売旅行

読売旅行「あなたの街から」いい旅 いつも これからも

TEL 03-6859-4343 FAX : 03-6859-4433

編集後記

エコ・リサ交流集会で初代事務局長の土淵あきらさんのご冥福をお祈りいたしました。長年にわたりエコ・リサの活動への土淵さんのご尽力に感謝いたします。

交流集会当日は、ZOOM配信に一部不手際があり、会場の様子がわかりにくかったようです。お詫び申し上げます。

エコ・リサでは、交流集会以外でも、地域の環境活動の情報交換を行っています。ぜひ、活動の様子を事務局までお知らせください。どうぞよろしくお願いいたします。（大前 万寿美）